

小さく生まれた子どもを支える

日本の出生数は2016年から3年連続で100万人を下回っていますが、その中で低出生体重児（出生時体重2,500g未満）の割合は2018年には9.5%と約1割を占めています。低出生体重児の中にはNICUに入室するために母子分離を余儀なくされるケースがあり、保護者の方々は大きな不安を抱えていることがあります。特に出生時体重1,500g未満の場合は、学齢期以降も身体発育や運動・言語の発達に対する不安を抱いていると言われ、地域全体が小さく生まれた子どもへの理解を深め、育児を支援することが望まれます。

本講座では、NICUでの看護経験や小児理学療法の経験を持つ教員が発達支援の実際について紹介し、咀嚼機能や成長・発達の状況からみた支援のあり方について解説を行います。

第1回 9月5日（木）

【小さく生まれた子どもの特徴と養育】

医学部保健学科 母子看護学講座 小児看護学分野
助教 齋藤 雅世

第2回 9月12日（木）

【小さく生まれた子どもの
「噛む力」と食べ方の支援】

医学部保健学科 母子看護学講座 小児看護学分野
教授 平元 泉

第3回 9月19日（木）

【小さく生まれた子どもの
成長・発達の特徴と運動の支援】

医学部保健学科 母子看護学講座 小児看護学分野
講師 大高 麻衣子

第4回 9月26日（木）

【脳性麻痺児に対する理学療法】

医学部保健学科 理学療法学講座
助教 木元 稔



【会 場】 秋田大学本道キャンパス
保健学科棟第1講義室
(秋田市本道一丁目1の1)

【時 間】 18:00 ~ 19:30

【対 象】 一般の方・高校生もどうぞ

【定 員】 20名（要申込）

【受講料】 無 料

【申込締切日】 8月29日（木）

